②中古音: ●聲母

	*	*	<i>©</i>	1050	Č
k 5	k 見	kh 溪	g {匣, 喻云, 喻以w}	gh 群	η疑
	t {端, 知, _照 章}	th {透, 徹, _穿 昌}	d {定, 澄, 喻以}	dh 禪↓	n {泥, <mark>娘</mark> , 日}
t13	s {心, 審生}	sh 審書 三	x 邪↓ ≡	xh ѫ船↑	1來
	c {精, 照 <mark>莊</mark> }	ch {清母, 穿 <mark>初</mark> }	z {從↑, 牀 <mark>崇</mark> }		
p4	p {幫, (非)}	ph {滂, (敷)}	b {竝, (奉)}		m {朙, (微母)}
\mathbf{q}^2	∅影	h 曉			

影は聲母が無い状態とみなす。

g はyを持つ綴りが接続すると 喩云 を担う。

t, th, d, n は i を持つ綴りが接続すると 照章, 寮昌, 喩以, 日 を担う。ただし、有標な綴りとして g も同じ条件で 喩以 を担うとみなし、合口の 清 \ia , 昔 の綴り wien, wiek は d ではなく g に接続させる。

審書, 邪や群, 禪, 牀船には三等韻が接続する。

t, th, d, n; s; c, ch, z は二等韻の綴りや y を持つ綴りが接続すると 知, 徹, 澄, 娘; 審生; 照莊, 穿初, 珠崇 を担う。廣韻での反切上字「牀」の字音から、俟母は 珠崇 とみなす。娘 は 泥 として扱われることもある。

輕唇音の発生以降、p, ph, b, m は yu, yu; ya, yo の何れかを持つ綴りが接続すると 非, 敷, 奉, 微母を担う。ただし、m は 東三, 屋三; 尤 の綴り yuŋ, yuk; yug が接続すると 微母ではなく 朙 を担い、これらの y を黙字にする。

Tyuŋ Kág Ym: Shieŋ-múg

Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-06-07

②中古音: ②四聲

	V	樂平	彙上	☀去	● 去	※入		
	i	in, id	ín, íd	ìn, ìd		it		
	у	yn, yd	ýn, ýd	ỳn, ỳd		yt		
	u	ưn, ưd	ứn, ứd	ừn, ừd		urt		
	u	un, ud	ún, úd	ùn, ùd		ut		
	e	en, ed	én, éd	èn, èd	èt	et		
<u>~</u>	a	an, a	án, á	àn, <mark>à</mark>	àt	at		
	o	on, od, o	ón, ód, <mark>ó</mark>	òn, òd, <mark>ò</mark>	òt	ot		
	註	末尾が他の子音字の場合も同様とする。 Tyun Kág Ym: Sìd Shien						
	W THE	Vatanabe Takàjuki <u>@Segsyoxafu</u> 2022-06-07						

②中古音: ●韻母

		等	母音	音字列	n,t	ŋ,k	m,p	d	 g	w	
************************************	♣	=		i	_臻 {眞(A), 諄A} in, {質(A), 術A} it		_深 侵 ^(A) im, 緝 ^(A) ip	止脂 ^(A) id		_流 幽 ^(A) iw	
### 1			*7	y	_臻 {眞(B), 臻, 諄B} yn, {質(B), 櫛, 術B} yt	p⁴,w蕒蒸yŋ, 職 yk	深侵 ^(B) ym, 緝 ^(B) yp	ェ脂 ^(B) yd		_流 幽(B) yw	
1		_	V	ư	_练 {痕, 魂} ưn, 沒 ưt	_曾 登 ưŋ, 德 ưk	_威 覃 ưm, 合韻 ưp	鰀 灰 ưd	_∰ 咍 ưg		
1				u	tl3合 _练 魂 un, 沒 ut	_通 東 [—] uŋ, 屋 [—] uk		t13 合	_流 侯 ug		
10		=	V	iư/yư	_臻 {欣, 文} yưn, {迄, 物} yưt	$_{\dagger}$ 蒸 iuŋ/yuŋ, 職 iuk/yuk	_歳 凡yưm, 乏yưp	_止 微韻 yưd	止之iug/yug		
V a		_		iu/yu	t ^{13合} 彝諄iun/yun,術iut/yut	邁 東三 iuŋ/yuŋ, 屋三 iuk/yuk		t ^{13台} 止脂 iud/yud	_流 尤 iug/yug		
150		四		e	_山 先 en, 屑 et	_梗 青 eŋ, 錫 ek	_咸 添 em, 帖 ep	_蟹 齊 ed		_效 蕭 ew	
ie			V	a	_{ப,} [寒, 桓] an, {曷, 末, 泰} at	_含 唐 aŋ, 鐸 ak	_威 談 am, 盍 ap	_果 {歌, 戈 ⁻ } a	_遇 模 ag	_效 豪 aw	
************************************		_		o	tl ^{3 合} 山, 鱟桓 on, {末, <mark>泰</mark> } ot	^{通冬 oŋ, 沃 ok}		tl3合 _果 戈一o			
				ie	_{ы, 鱟} 仙 ^(A) ien, {薛 ^(A) , 祭 ^(A) } iet	_梗 清韻 ieŋ, 昔 iek	_威 鹽 ^(A) iem, 葉 ^(A) iep	』支(A) ied		_效 宵 ^(A) iew	
130		=		ye	_{ப், 餐} 仙 ^(B) yen, {薛 ^(B) , <mark>祭</mark> ^(B) } yet	_₹ {清韻, 庚三} yeŋ, {昔, 陌三} yek	_咸 鹽 ^(B) yem, 葉 ^(B) yep	止支(B) yed		_效 宵 ^(B) yew	
1	÷	_		ia/ya	_{臻山, 鱟止} 元 yan, {月, <mark>廢</mark> } yat	启陽 iaŋ/yaŋ, 藥 iak/yak	_咸 嚴 yam, 業 (iap)/yap	_果 樂戈 ^三 (ia)/ya	_遇 {魚, 虞} iag/yag		
1			vV	io/yo	tl3合 山, 鱟 仙 ion/yon, {薛, 祭} iot/yot	:通鍾 ioŋ/yoŋ, 燭 iok/yok		tl3合业支iod/yod	tl3台 遗 虞 iog/yog		
まいり は				иe	_山 Ц wen, 黠 wet	_梗 耕 ưeŋ, 麥 ưek	_威 咸 trem, 治 trep	_蟹 皆 wed	_蟹 佳 weg	_效 肴 wew	
支三には半聲しか無い。去聲専用間 5. 祭 版 大は (の去覺とみなす。 c. 梵語音訳"貝多羅"、(題. 知. 東帝 : wa 表 中の 報りは開口の福母 (茂 の一部や 魚 を合む) を担う。対応する合口の福母 (茂 を合む) は、p 4 では開口の綴りが、 k5. q 2 では開口の綴りの 値前に子音字 w を加えて得られる綴りが、 t13 では u, o を持つ綴りが良う。 cf. 日本漢字音 去聲明語による場合を除き、複数の攝が "つの欄に同居することの無い様にした。元. 月 は、廣韻では珠様、誰鏡や七音略では川橋とみなし得る。		=		ưa	_{ப்,} 删 wan, {鎋, 夬} wat	_梗 庚 ^二 ưaŋ, 陌 ^二 ưak	_威 銜 ưam,狎 ưap		_假 麻二 ura		
大三には平聲しか無い。去聲専用館				ưo	t ^{13 合} 山, 鱟 刪 tron, {鎋, 夬} trot	_江 江 ươŋ, 覺 ươk			t13 合 _假 麻二 tro		
線枠内の綴りは開口の簡母(没の一部や魚を含む)を担う。対応する合口の簡母(虞を含む)は、p4では開口の綴りが、k5,q2では開口の綴りの直前に子音字wを加えて得られる綴りが、t15では u,oを持つ綴りが担う。cf 日本漢字音 去整専用測による場合を除き、複数の屬が一つの欄に同居することの無い様にした。元,月は、廣瀏では臻極、韻鏡や七音略では山嶽とみなし得る。度は、廣湖では蟹極、離鏡では止極、七音略では養養と止極の両方とみなし得る。 d,gと違ってもには半母音的な音師の保証となる聲母が無い為、もではなくwとした。 一般的に推定される音声、野母としての d o o 音価、文字の有無の機能負担量から、果猫や眼海の被りの末尾に想定される d 及びそれと同音価の g を黙字とみなし、中占音以降の体系に於いて最初から音価を持たない文字として脱落させた。cf. e以、e云: 過癌、溶癌、晒 i 13では漢字数からi を、p4 や k5. q2 では漢字数や韻圖での等位からyを三等韻の綴りに於ける最初の母音字として無標とみなす。青色の欄の綴りは t15 に接続することが殆ど無い。 (香園反)と 言能反) の対立の無い原間以降を記述対象とすることで、陶の綴りが k5. q2 に接続する場合も同様に y を無標とみなす。ただし、[伊課切] は類相関により iw となる。cf. 侵. 錯 重唇音への接続、類相関、ことの関係から、蒸、職の綴りは p4. w に接続する場合を yp,yk、それ以外を ivp/yvp, ink/yvk とする。ただし、[約 旋切] は頻相関により kkyp となる。廣韻以降を記述対象とした為、[於力反]と [於棘反] の対立は扱わない。 淡での対立の可能性、聲符「凡」と上古侵部の関係(正念孫の解釈での韻字 「汎」によるものを含む)、「汎」と「泛」の関係から、凡 乏は	∃ vvV iua					_假 麻 ^三 iwa					
分音による解釈を採用しながらも分音記号が使えないという場合、本来要求される綴りから分音記号を外す。例: đìd → dìd Tyuŋ Kág Ym: Gwyừn-múg			註	去聲専用韻による場合を除き、複数の攝が一つの欄に同居することの無い様にした。元,月は、廣韻では臻攝、韻鏡や七音略では山攝とみなし得る。 d,gと連ってもには半母音的な音価の保証となる聲母が無い為、bではなくw とした。 一般的に推定される音声、聲母としてのdの音価、文字の有無の機能負担量から、果攝や假攝の綴りの末尾に想定されるd及びそれと同音価のgを黙字とみなし、中古音以降の体系に於いて最初から音価を持たない文字として脱落させた。 cf. ®以,®云; 遇攝, 滔攝, 通攝, 流攝; 剛 ti3 では漢字数から i を、p4 や k5, q2 では漢字数や韻圖での等位から y を三等韻の綴りに於ける最初の母音字として無標とみなす。青色の欄の綴りは ti3 に接続することが殆ど無い。 [香幽反]と[許彪反]の対立の無い廣韻以降を記述対象とすることで、幽の綴りが k5, q2 に接続する場合も同様に y を無標とみなす。ただし、[伊謬切]は類相関により iw となる。 cf. 侵, 組 重唇音への接続、類相関、之との関係から、蒸,職 の綴りは p4, w に接続する場合を yn, yk、ぞれ以外を iurn/yun, iuk/yuk とする。ただし、[綺 競切]は類相関により khyn となる。廣韻以降を記述対象とした為、[於力反]と [於棘反]の対立は扱わない。 漢 での対立の可能性、聲符「凡」と上古侵部の関係(王念孫の解釈での韻字「汎」によるものを含む)、「汎」と「泛」の関係から、凡,乏は 嚴、業と音韻的に異なるとみなし、その綴りを yum, yup とした。 cf. 東三 屋三, 尤, 聲符「冘」 ※生: 照批, 愛初, *業 に接続する 庚. 陌 について、上古韻部の傾向から、※生に接続する 庚 を三等韻、それ以外を二等韻とみなす。 聲母と韻母の組み合わせが記述できないものである場合、近古音などに基づく近似の字音で代用するか、分音による解釈を試みる。例: "地"[定, 脂, 間, 去] (廣韻 [徒四切], 韻鏡 [閉, 舌音, 濁; 至, 四等]), 中原音韻 [帝]							
was a second of the second of											

>参考文献

	■ 参考 义 厭
	書誌
	中村 雅之. "音韻学入門~中古音篇~". 漢語音韻史の教室. 1998. http://chinese-phonology.com/nyumonkouza.html .
	Schuessler, Axel. Minimal Old Chinese and Later Han Chinese: A Companion to Grammata Serica Recensa. University of Hawaii Press, 2009, (ABC Chinese Dictionary Series, no. 20). eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/96304289/minimal-old-chinese-and-later-han-chinese/axel-schuessler/ .
	藤堂 明保, 水谷 真成, 平山 久雄, 菊田 正信. "II 音韻論". 言語 新装版. 牛島 徳次, 香坂 順一, 藤堂 明保 (編). 大修館書店, 2011, p. 33–178, (中国文化叢書, no. 1).
概説	太田 斎. "韻書と等韻図 I". 神戸市外国語大学研究叢書. 神戸市外国語大学外国学研究所, 2013, no. 52, p. 1–258. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00001322/.
	太田 斎. "韻書と等韻図 II (完)". 神戸市外国語大学外国学研究. 神戸市外国語大学外国学研究所, 2016, vol. 92, p. 145–246. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002198/.
	太田 斎. "韻書と等韻図 I/II 補説". 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2017, vol. 67, no. 54, p. 1–28. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002154/.
	Shen, Zhongwei. A Phonological History of Chinese. Cambridge University Press, 2020. eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/209931523/a-phonological-history-of-chinese/zhongwei-shen/.
	平山 久雄. "切韻における蒸職韻と之韻の音価". 東洋学報. 東洋文庫, 1966, vol. 49, no. 1, p. 42–68. 東洋文庫リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1629/00005047/.
論文	太田 斎. "蒸職韻、幽韻における重紐の痕跡". 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2021, vol. 73, no. 3, p. 1–65. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002391/.
	韻鏡 (永禄本). 1564. 国立国会図書館デジタルコレクション, https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/
	<u>2532126</u> .
原典	"七音略第一". 通志巻三十六. 鄭 樵 (撰). 1161. 欽定四庫全書 史部. 1781. Internet Archive,
/2025	https://archive.org/details/06058579.cn, p. 83–138.
	"七音略第二". 通志巻三十七. 鄭 樵 (撰). 1161. 欽定四庫全書 史部. 1781. Internet Archive,
	https://archive.org/details/06058580.cn, p. 2–51.
	鈴木 慎吾. "王念孫 侵部平聲韻譜". 諸家先秦兩漢三國韻讀. http://suzukish.s252.xrea.com/search/xiangin/index.php?yunbu=侵平&scholar=王念孫.
	鈴木 慎吾. 漢語上古音檢索 (鄭張音). http://suzukish.s252.xrea.com/search/zhengzhang/
	search top.php.
	鈴木 慎吾. Web韻圖 ~廣韻檢索~. http://suzukish.s252.xrea.com/search/inkyo/index.php.
	鈴木 慎吾. 切韻諸本輯覽. http://suzukish.s252.xrea.com/search/qieyun/index.php.
字音	漢字データベースプロジェクト. 宋本廣韻データ. http://kanji-database.sourceforge.net/dict/sbgy/
	index.html.
	郭 家寶 (alias BYVoid). 韻典網. https://ytenx.org/.
	臺灣大學中國文學系, 中央研究院資訊科學研究所. 漢字古今音資料庫. https://
	xiaoxue.iis.sinica.edu.tw/ccr.
	Jerry. 古今文字集成. <u>http://www.ccamc.co/index.php</u> .
字源	優質教育基金, 香港中文大學人文電算研究中心 (alias Humanum). 漢語多功能字庫. http://http://http://http://http://http://http://http://http://http://http://htmanum.arts.cuhk.edu.hk/Lexis/lexi-mf/ .
	山田 俊雄. "万葉仮名". 改訂新版・世界大百科事典. 平凡社 (編). 平凡社, 2007. ジャパンナレッ
	ジ (サンプルページ), https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=375.
日本語	
	https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/kanjikai2.
	角川新字源 改訂新版. 小川 環樹, 西田 太一郎, 赤塚 忠, 阿辻 哲次, 釜谷 武志, 木津 祐子 (編). 角
	川書店, 2017. 辞書 by 物書堂, https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/shinjigen2.
越南語	CJKI越日辞典. 日中韓辭典研究所, 井上 寬 (編). 2020. https://cjki.org/samples/vjgv_j.htm .
前提	渡邉 隆之 (alias Vatanabe Takàjuki). "原則". Segsyoxafu. 2021. https://segsyoxafu.wordpress.com/gwensoku/.
	

☆使用文字

	墨字	数				
子音字	b, c, d, g, h, k, l, m, n, ŋ, p, s, t, w, x, z	16				
母音字	a, e, i, o, u, u, y		25			
被せ音字	ó, ò	2				
不使用	Î用 f, j, q, r, v		5			
	$\mathfrak{y} \to \mathrm{q}$					
代用表記	$w \rightarrow v$					
	\circ , $\circ \rightarrow \circ$					
4	Vatanabe Takàjuki <u>@Segsyoxafu</u> 2022-06-07					